日本語指導を必要とする児童の個別の教育支援計画に基づく日本語指導の一考察

前ジョホール日本人学校　教諭
福岡県立久留米聴覚特別支援学校　教諭　前　田　丈　人

キーワード：日本語指導を必要とする児童，個別の教育支援計画，日本語指導

１．はじめに

文部科学省では，「日本語指導が必要な外国人児童生徒」を，「日本語で日常生活が十分にできない児童生徒および日常生活はできても，学年相当の学習言語が不足し，学習活動への参加に支障が生じており，日本語指導が必要な児童生徒」（文部科学省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」1991年）と定義している。

この日本語指導が必要な児童生徒については，外国籍者に限られるわけではなく，近年では，国際結婚の家庭の児童生徒，日本国籍者ではあっても，長期の海外生活を得て帰国した児童生徒に対し，日本語指導を行っている学校も少なくないということである。

ここジョホール日本人学校においても，現在，何らかの日本語指導が必要と考えられる児童生徒が５％ほど通学している。家庭環境も様々で，両親の片方が日本国籍を持っているが，家庭内言語は，マレーシア語や中国語といった日本語以外の言語の場合が多い。

そこで，このような日本語指導が必要な児童生徒の指導にあたって，支援・連携のツールとして効果的に活用できる「個別の教育支援計画」「個別の教育指導計画」策定・作成の実際について考察する。

２．日本語指導を必要とする児童の個別の教育支援計画に基づく日本語指導

(1) 日本語指導が必要な児童生徒に対する個別の教育支援計画策定の意義

「個別の教育支援計画」とは，障害のある幼児児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し，教育の視点から適切に対応していくという考えの下，長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的として策定されるもので，教育のみならず，福祉，医療，労働等の様々な側面からの取組を含め関係機関，関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠であり，教育的支援を行うに当たり同計画を活用することが意図されている。（文部科学省 「特別支援教育を推進するための制度の在り方について，＜答申＞」2005年12月8日）とある。

日本語指導が必要な児童生徒に対して，この個別の教育支援計画を策定するにあたっては，本人と保護者のニーズをベースにして，「どの目標がどのような参加を目指しているのか」などを明らかにする必要がある。そのことで，より効果的な日本語指導につながると考える。

(2) 日本語指導が必要な児童に対する個別の教育支援計画策定の実際

日本語指導が必要な児童のニーズを正確に把握し，教育の観点から適切に対応していくという考えの下，福祉，医療，労働等の関係機関との連携を図りつつ，乳幼児期から学校卒業までの長期的な視点に立って，一貫した的確な教育的支援を行うために，個別の教育支援計画策定し，計画する。

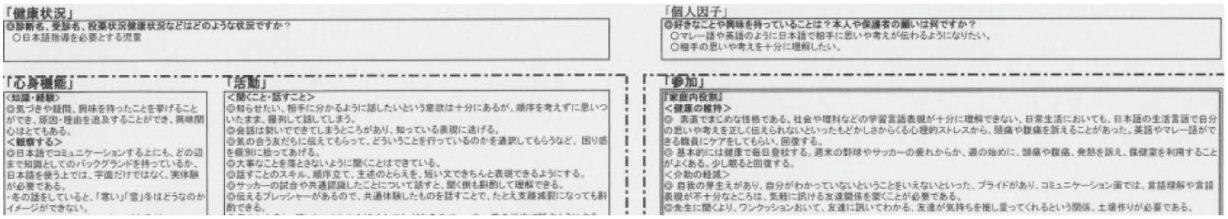
まず，インテイク段階で，資料１のようなインテークシートを使用する。本人の長所と課題，活動，参加など，支援を進める上で必要な情報を把握することで，より適切な日本語指導につながると考える。

資料１　個別の教育支援計画（インテークシート）＜様式１－１＞

主訴		氏名　　学年
・マレー語や英語のように日本語で相手に思いや考えが伝わるようになりたい。		男子 A　　小３
心身機能等特性（長所と課題）	活動（学業・人間関係他）	参加（学校，部活，塾等）
・母親とは，マレー語か英語で考え，コミュニケーションをとっている。 ・父親とは，日本語でコミュニケーションをとっている。 ・英語やマレー語で母にしている表現力と，日本語で父親，友だち，授業でしている表現力との違いを意識の有無にかかわらず感じている。	・発表を意欲的にする。読解に難があるため，ずれが見られるが，その都度意欲を認めて自尊心を尊重しながら修正をし，次につなげるように指導する。 ・ワークや国語の読みに関してずれが見られるときも，休み時間を利用して指導する。 ・父親が宿題を見てくれており，算数が好きできちんとやる	・日本語指導のときに，『てにをは』や句読点の使い方，「 」の表現，書き方などの日本語の文法的なところを指導してもらいたい。 ・簡単な話をどれだけ聞き取れるか，問答して，内容を確認する必要がある。 ・学校の部活でサッカー（火），総合スポーツ（金）に所属している。

次に，資料２のような実態把握シートを使用する。本人の生活や学習上の困難の改善，社会参加につながる目標を明らかにして，他の構成要素の課題と関連を考慮して実態を把握する。

資料２　個別の教育支援計画書（実態把握シート）＜様式１－２＞


「健康状況」
◎診断名，受診名，投薬状況健康状況などはどのような状況ですか？
○日本語指導を必要とする児童

「個人因子」
◎好きなことや興味を持っていることは？本人や保護者の願いは何ですか？
○マレー語や英語のように日本語で相手に思いや考えが伝わるようになりたい。
○相手の思いや考えを十分に理解したい。

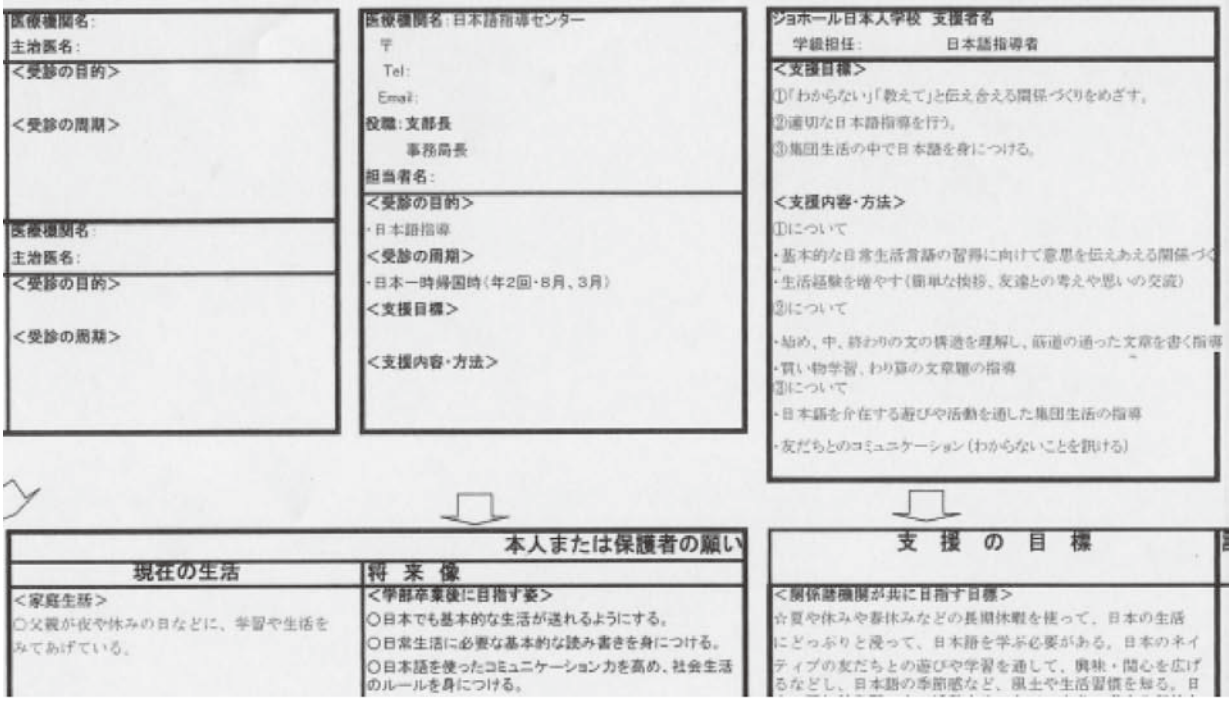
「心身機能」
〈短期・継続〉
◎気づきや疑問，興味を持ったことを挙げることができ，原因・理由を追及することができ，興味関心はとてもある。
＜観察する＞
◎日本語でコミュニケーションする上にも，どの辺まで知識としてのバックグランドを持っているか。日本語を使う上では，平面だけではなく，実体験が必要である。
・冬の話をしていると，「寒い」「雪」等はどうなのかイメージができない。

「活動」
＜聞くこと・話すこと＞
◎知らせたい，相手に分かるように話したいという意欲は十分にあるが，順序を考えずに思いついたまま，羅列して話してしまう。
◎会話は飽いてできてしまうところがあり，知っている表現に逃げる。
◎気の合う友だちに伝えてもらって，どういうことを行っているのかを通訳してもらうなど，困り感を個別に拾ってあげる。
◎大事なことを落とさないように聞くことはできている。
◎話すことのスキル，順序立て，主述のとらえを，短い文できちんと表現できるようにする。
◎サッカーの試合や共通認識したことについて話すと，聞く側も刺激して理解できる。
◎伝えるプレッシャーがあるので，共通体験したものを話すことで，たとえ支離滅裂になっても刺激できる。

「参加」
『家庭内役割』
＜健康の維持＞
◎　素直でまじめな性格である。社会や理科などの学習言語表現が十分に理解できない。日常生活においても，日本語の生活言語で自分の思いや考えを正しく伝えられないといったもどかしさからくる心理的ストレスから，頭痛や腹痛を訴えることがあった。英語やマレー語ができる職員にケアをしてもらい，回復する。
◎ 基本的には健康で毎日登校する。意来の野球やサッカーの疲れからか，週の始めに，頭痛や腹痛，発熱を訴え，保健室を利用することがよくある。少し寝ると回復する。
＜分動の経済＞
◎ 自我の芽生えがあり，自分がわかっていないということをいえないといった，プライドがあり，コミュニケーション面では，言語理解や言語表現が不十分なところは，気軽に訊ける友達関係を築くことが必要である。
◎先生に聞くより，ワンクッションおいて，友達に訊いてわかる，友達が気持ちを推し量ってくれるという関係，土壌作りが必要である。

さらに，資料３のようなフェースシートを使用する。本人や保護者の願いを踏まえた「目標」がまず先にあって，それを達成するために関係者が役割を分担する。

資料３　個別の教育支援計画（フェースシート）＜様式１－３＞


医療機関名：
主治医名：
＜受診の目的＞
＜受診の周期＞
医療機関名：
主治医名：
＜受診の目的＞
＜受診の周期＞

医療機関名：日本語指導センター
〒
Tel：
Email：
役職：支部長
事務局長
担当者名：
＜受診の目的＞
・日本語指導
＜受診の周期＞
・日本一時帰国時（年2回・8月、3月）
＜支援目標＞
＜支援内容・方法＞

ジョホール日本人学校　支援者名
学級担任：　日本語指導者
＜支援目標＞
①「わからない」「教えて」と伝え合える関係づくりをめざす。
②適切な日本語指導を行う。
③集団生活の中で日本語を身につける。
＜支援内容・方法＞
①について
・基本的な日常生活言語の習得に向けて意思を伝えあえる関係づくり
・生活経験を増やす（簡単な挨拶、友達との考えや思いの交流）
②について
・始め、中、終わりの文の構造を理解し、筋道の通った文章を書く指導
・買い物学習、わり算の文章題の指導
③について
・日本語を介在する遊びや活動を通した集団生活の指導
・友だちとのコミュニケーション（わからないことを訊ける）

本人または保護者の願い
現在の生活
＜家庭生活＞
◎父親が夜や休みの日などに、学習や生活をみてあげている。
将　来　像
＜学部卒業後に目指す姿＞
○日本でも基本的な生活が送れるようにする。
○日常生活に必要な基本的な読み書きを身につける。
○日本語を使ったコミュニケーション力を高め、社会生活のルールを身につける。

支　援　の　目　標
＜関係諸機関が共に目指す目標＞
☆夏や休みや春休みなどの長期休暇を使って、日本の生活にどっぷりと浸って、日本語を学ぶ必要がある。日本のネイティブの友だちとの遊びや学習を通して、興味・関心を広げるなどし、日本語の季節感など、風土や生活習慣を知る。日

このようにインテークシート（資料１）による実態把握に基づき，実態把握シート（資料２）やフェースシート（資料３）を策定し，それに基づく日本語指導を通して，さらに必要な情報を補い，個別の教育支援計画を見直していくことが大切である。

(3) 日本語指導が必要な児童に対する個別の教育指導計画作成の実際

日本語指導が必要な児童一人一人の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう，学校における教育課程や指導計画，当該児童生徒の個別の教育支援計画を踏まえ，より具体的に教育的ニーズに対応した指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ個別の教育指導計画である。

まず，資料４のような長期目標と短期目標の対応シートを使用する。目標と評価，その結果を受けた上で次にどのような目標にするかについて，横に連続して記して，関連性を把握することで，より効果的な日本語指導につながると考える。

資料４　個別の教育指導計画（長期目標と短期目標の対応シート）＜様式２＞

氏名	A	生年月日	年　月　日（　歳　月）	指導形態	通／月　日（　）曜日 各 時間：（集団／個別）
		記載時	23年　5月　1日（記載者　　）	指導領域	（聞く／話す／読む／書く／計算する／推論する／行動／社会性）
			24年　3月　15日（記載者　　）	指導場所	（　年教室・多目的教室　　）：担当者（　　）

長期目標	設定日	評価（予定）日	評価
(1)学校生活・学習に関する基本的な事柄や言葉の仕組みについて短文で読んだり書いたりして、気づくことができる。	平成23年5／1	平成24年3／13	(＋)比喩や様子を表す言葉、感情表現の意味を理解して自分で簡単な文章を書くことができる。また、場面や内容を理解することができる
(3)教師や友達と一緒に日本語を介する遊びをする中で、意思の疎通に喜びを感じることができる。	平成23年5／1	平成24年3／13	(＋)みんなの輪の中にあって、身振りや手振りを交えて日本語による感情表現や意思の疎通を取りながら、笑顔で遊ぶことができていた。

対応する長期目標	当期(4/15～3/15)の短期目標と手だて	評価	対応する長期目標	来期(4 /15～3/15)の短期目標と手だて
(1)	授業や行事などの様子に即した簡単な語彙や表現した一文で使用する主語や述語修飾語について、教師からのアドバイスにより正しく読んだり書いたりする。	(＋)動詞・形容詞の意味を理解し、短いの文の内容を理解することができる	(1)	目標 文の構成力を身に付けて長い作文を書く。
	手だて 豊富なイラストやパターン項目で状況、語彙・表現によって示されている学習漫画やワークシートで読んだり書いたりさせて日本語を指導する。	(＋)状況、語彙・表現についてイラストやパターン項目で提示することで文章の中の場面の様子を読み取ることができる。 (－)簡単な語彙や表現した一文で使用する主語や述語修飾語について曖昧なところがある。片仮名については、もう少し練習が必要である。		手だて 新しく習った言葉はその言葉をを使って例文を書かせる。教師が言った短文を聞き取って、漢字交じり文で書かせることで、漢字の使用に自信をつける。文と文の意味関係マップを書かせて、はじめ、中、終わりの文の構成力を鍛える。

次に，資料５のような教科立案シートを使用する。日本語指導が必要な児童の「目標に対する評価」と「手立てへの評価」と明確に分けて把握することで，より効果的な日本語指導につながると考える。

資料５　個別の教育指導計画（教科立案シート）＜様式３＞

	単元名	本児童生徒の目標	目標設定の理由	目標についての評価
国語	ものの名前や教室用語に親しもう	(1)学校生活・学習に関する基本的な事柄や言葉の仕組みについて短文で読んだり書いたりして、気づくことができる。 (2)例文を読むことによって場面でしか理解できなかった言葉の用法に親しみ自立して読書することができる。	会話は祭いでできてしまうが、いきおいでできてしまうところがあり、知っている表現にすぐ流げてしまう。読解力（国語力）となると、別である。わからない言葉がいっぱいある。推推して会話するのが得意である。本等はストップして目で追って、頭に考えて理解する必要がある。本筋をつかんでいないのでは？読ませる言葉を拾う。単	難しくなるにしたがってわからないものがいっぱい出てくる。ぬけているものを拾なう。 手の曲げ伸ばしなど、手を曲げてのアクションをしながら口形をしながら明示する。 読ませる。単語、言葉を拾う。言葉の説明。how toどうやって話すかにweight。わからないところ

	具体的な手だて	手だてへの評価
国語	(1)ワークシートを一緒に見ながら語彙感をもたせて読んで聞かせる。その場の行動が書いてあって面れない楽しい学習漫画を読ませることで、読解問題の楽しさに触れるようにする。 近高い物にある物をとる。「手を伸ばす」までは言える。「手を伸ばしてとる」がむつかしいので、3年生では覚えた言葉をどう使うかを中心に日本語指導者が教科書の内容をカバーして、三年生では二年生の問題を復習する。	内容をよく吟味し、語から単語、単語から文になるように工夫して、どこを理解しているのかないのか、理解度に応じたワークシートを中心に教材を選択した。また、語彙に関しては、長文を音読させることで、話す聞く書くを

このように，個別の教育支援計画の策定に基づき，長期目標と短期目標の対応シート（資料４）や教科立案シート（資料５）を作成し，それに基づく日本語指導を通して，P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（見直し）サイクルによって個別の教育指導計画を見直していくことが大切である。

３．おわりに

日本語指導が必要な児童生徒の指導にあたっては，「個別の教育支援計画」「個別の教育指導計画」を策定・作成し，具体的な目標を設定することである。そして，それを支援・連携のツールとして効果的に活用し，資料６のような評価の観点シートを使用して評価の規準を明確にする。このことで，見通しを持って日本語指導が必要な児童

生徒の指導にあたることができると考える。また，日本語指導の教師や学級担任などの複数の教師が，共通理解のもとに指導することができ，日本語指導が必要な児童生徒自身が，自分の目標を自覚しやすくなると考える。

資料６　評価の観点シート＜様式４＞

		氏名　　A	到達度　◎	○	△
国語	聞く	イラストやパターン項目で提示することで比ゆや様子，感情を表す言葉の意味が理解できる。			
		簡単な学習内容による指示内容や質問を理解することができる。			
	話す	「は」「を」「へ」を適切に使い，内容を分かりやすく伝えることができる。			
		はじめ，中，終わりの文の構造を理解し，主語，述語の文が作れる。			
	読む	状況，語彙・表現についてイラストやパターン項目で提示することで文章の中の場面の様子を読み取ることができる。			
		場の行動が書いてある文章を，臨場感を持たせて読んで聞かせることで人物の気持ちを読み取ることができる。			
	書く	はじめ，中，終わりの文の構造を理解し，筋道の通った文章を書くことができる。			
		指示語や接続語の役割に注意して，短文を書くことができる。			

以下のように，日本語指導を必要とする児童の個別の教育支援計画に基づく日本語指導について，その成果と課題がまとめられる。

まず，パソコン操作を練習してローマ字入力等のキー操作を身に付け，「長い作文」を打つ活動に取り組んでいる。パソコンを活用することで，まず，書くことへの抵抗感をなくすことができる。また，わからない言語表現を検索しやすい，漢字の変換が簡単である，文法的な表現の間違いについても下線表示されて理解しやすいなどの効果がある。

次に，わからないことを「わからない」「教えて」と伝え合える関係作りに取り組んでいる。たとえば，グループの中で，教科担当制を敷き，日本語指導が必要な児童が，小先生になる場を設定する。このことで，教える義務ができ，教えるために訊かざるを得ない場面が必要となる仕組みを育む。

そして，友だちと一対一で向かい合って物語文を読んだり，自分の感想や意見についてノートを指差して発表しあったりする活動に取り組んでいる。たとえば，口形や身振り手振りを踏まえ，日本語指導が必要な児童のペースにそって活動できることがある。このように安心感を育み，かつ確実に伝え合いができるという意味において効果的である。

さらに，校外学習や学芸会などの行事で体験したことを感想文に書き，壁新聞作りに取り組んでいる。たとえば，「始め→中→終わり」のフォームで繰り返すことで，そのフォームが自分のものになる。また，わからないところを友だちに訊きやすいし，文法的に違うところを指摘してもらえ，達成感を持つことができる。すなわち，一人で０から10まで作るのではなく，役割分担があり，その分，量は少なく，個人の負担が減る。また，できないところをカバーしてもらえ，完成度はある。

そのほか，実際の日本語指導の場において，困り感を共有できる同士としての存在が，日本語指導が必要な児童の支えとなり，心強いということがある。たとえば，わからないレベルや，どうしたらわかるのかといったことをお互いに理解しあい，一緒に同じペースで伝え合える。また，先行した側が，アドバイス等できることがある。このような意味において，日本語指導が必要な児童同士の伝え合い活動は効果的である。